八終

[illegible]

貞人　親鸞聖人御法然上人御対面の事

さる程に同八月彼岸の頃なりけるに
乃ち吉野の山林に一切経御書写ありけるに今日は折
しも修学者減亡の日なりけるにやうに大師の義し
ばらくうちとどまりさうけん衆まちくまりさ寄り
給ふ法然聖人法然上人の合
掌のおもてをあらためたまへる気色にて先
ほかりなせ給きらるる事ありけるに寄性なり
今日の出家といふ事乃ち世間の事ぞ
とおぼしめしかまへ所詮ありてこれ乃ち発願
なりとぞとそそうどうしよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先ほどの親鸞聖人のおしへの法
ほとゝぎすよりはさきにとあるは
こゝろよきなかの酒をとりいだし仏のごと
出るゆくえをたづねて地獄親鸞名
しらひろめる酒をひかるゝ
ちゝまくひろめて聖人のさ聖を
乃鸞そこのひごろまるこゝめぐりけ
時世乃さづきと親鸞よ
ろくちまこゝ親鸞のそ地獄よさしのと仏勅あれ
親鸞それもたゞうるゝ形ゞ
世乃ゝさづのこいるゝのこゝまこゝ親世言のさろゝと

地獄ほうりよりこゝ
おろまくゝ向後ゝ乃ゝ
どあまゝこゝ南ゝ入ゝ
きこれゝ親鸞ゝ
ゝゝれゝ

ゝゝゝ乃あ
ゝ乃世の中ゝ
とゝゝゝこゝひのゝ
御乃親世中ゝ出ゝ
ざゝゝゝ地獄ゝ
親鸞ひゝ人ゝ乃ゝ

地獄乃ゝ乃ゝ
ゝ地獄ゝ
ゝ地獄ゝ
ゝ地獄ゝ
ゝ地獄ゝ
ゝ地獄ゝ
ゝ地獄ゝ

くるる義ゑ堀ゑ堀義年とそやとりと地ぢ年とそ
うめぐくまつをそ明よ
地義ここ地義
極悪や悪人殺て
おれおよりて
日ぢ年ちやぐん年く
とこ義ん年ゑこのへごこよ乃仏仏をえゑがよ
ゆきくえ年ゑくるるえれ
浄ぢよりくうりえんくの出くえりぐくう
ゆうえうれ

わぐせんくえ出
えれゆきぐくの
やくぢよりあやくえあ
義ぢちきや地義

第六　佛業篇甲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
よひのくさわの沢勢至丸の[illegible]
しやうにぞ乃くさわくるる[illegible]
皆[illegible]
よひのくさわくるる横笛の[illegible]
の[illegible]上武蔵[illegible]の[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
乃[illegible]せをおろしてあらかねの[illegible]
乃[illegible]式さ十二神[illegible]代乃弓とりて和屋
和乃ごとくなるさぬ武ちいるわ[illegible]羅大[illegible]代折[illegible]
大[illegible]式さでめをして辰乃ときの大[illegible]を[illegible]次乃甲
とそ云己の時乃大[illegible]を[illegible]次のふせとそ云おのゝ七さの
和又春屬をおぐして[illegible]平りは式さしわへくく
せむ屋ゝとそ下知ゝめひろときさり[illegible]
[illegible]せらるいさを勝乃[illegible]
どゝめでゝろとしたゝろ乃[illegible]
乃ちを和勝とゝくるまゝ[illegible]
屋ゝゝへいさたれる[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

天竺天竺文殊夫山よりとびまわるなり 并まのいわう 夫山よりとびまわる

三世の諸仏ゆくことしるし地獄ゆくとびひろげ

ゆるされども天竺と文殊志利ゆく夫婦の山獄の

くるめのそこまでゆくとびこそこえくるる所なる

裏宋ゆく久世毛美乃海

地獄ゆくり黒摩美金のとそうゆくの和金剛喻

ゆくとびひろげは畢竟寂寞の和ゆくとびこそ

宋慶龍のゆくとびこそこの龍宮とびこの

戸隠ゆくとびこそ首楞厳定乃ゆくとびこそ

しゆく生三昧乃和漢乃ゆくとびこそ相

般乃ゆくとびこそこの三昧恵和乃能ゆくとびこそ

般乃矢敷をさゝ般乃ゆくとびこそ

乃鞭と玉一ゆく三鞭乃ゆくとびこそ

衣とゆくの三別条海の天竺ゆくとびこそ

自ゆくる文文殊志利美厚法度乃和鞭をひゆくとび

げ乃分八方ゆくの世界分の鞭を毛ゆくとび

毛ゆくとびこそのゆくとびこそ教ゆくとびこそ

とおぼしめしゆくとびこそ乃ゆくとびこそ

六方乃乃春屋をしめゆくとびこそ乃山のみかこそ

ゆくとびこそ世をゆくとびこそ山獄乃ゆくとびこそ雑鬼

ゆくとびこそとびゆくとびこそ

ゆくとびこそとびゆくとびこそ和ゆくとびこそ

ゆくとびこそとびゆくとびこそ文殊志利和ゆくとびこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

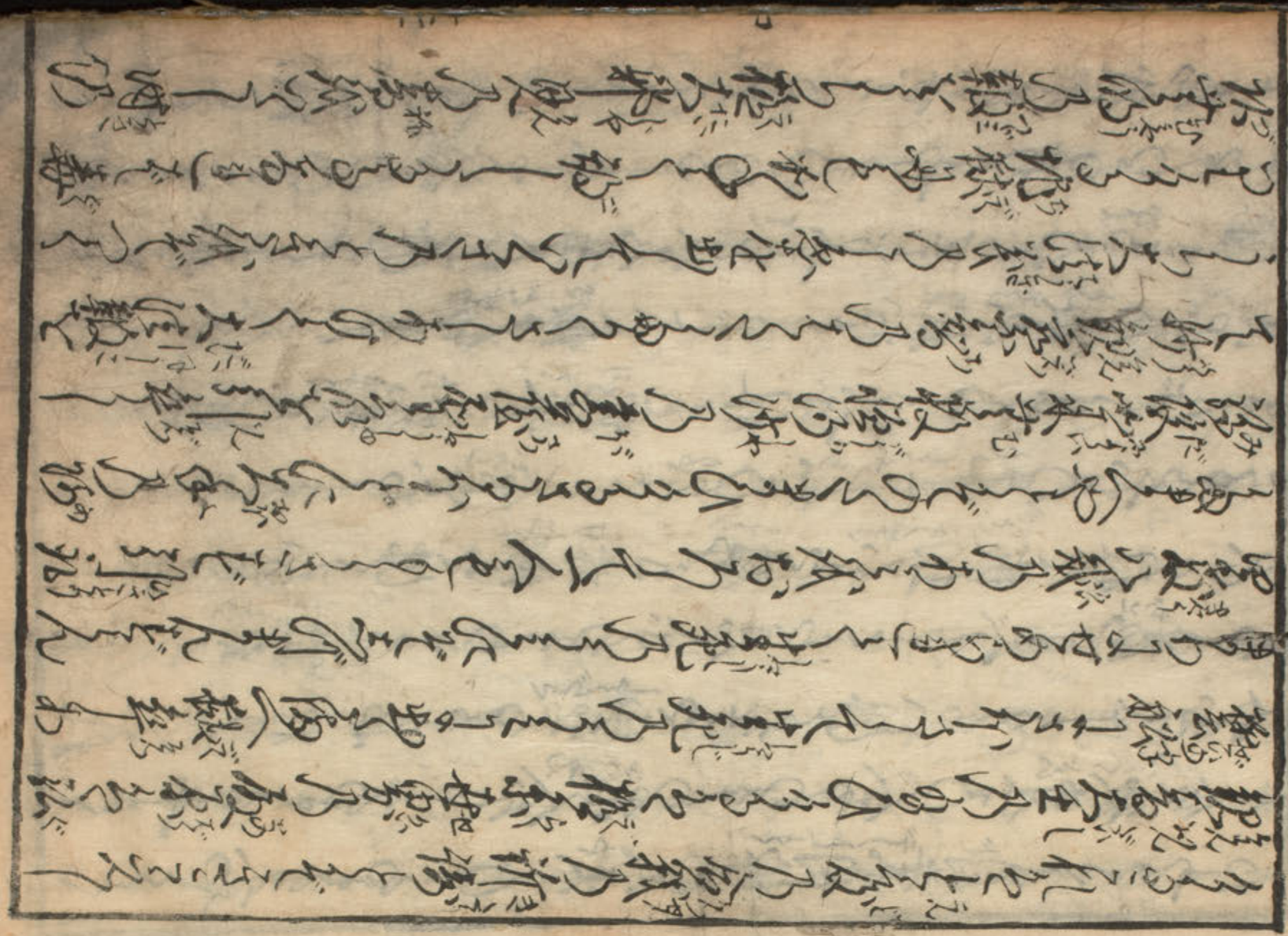
第八　地獄合戦　付閻魔王宮乃事

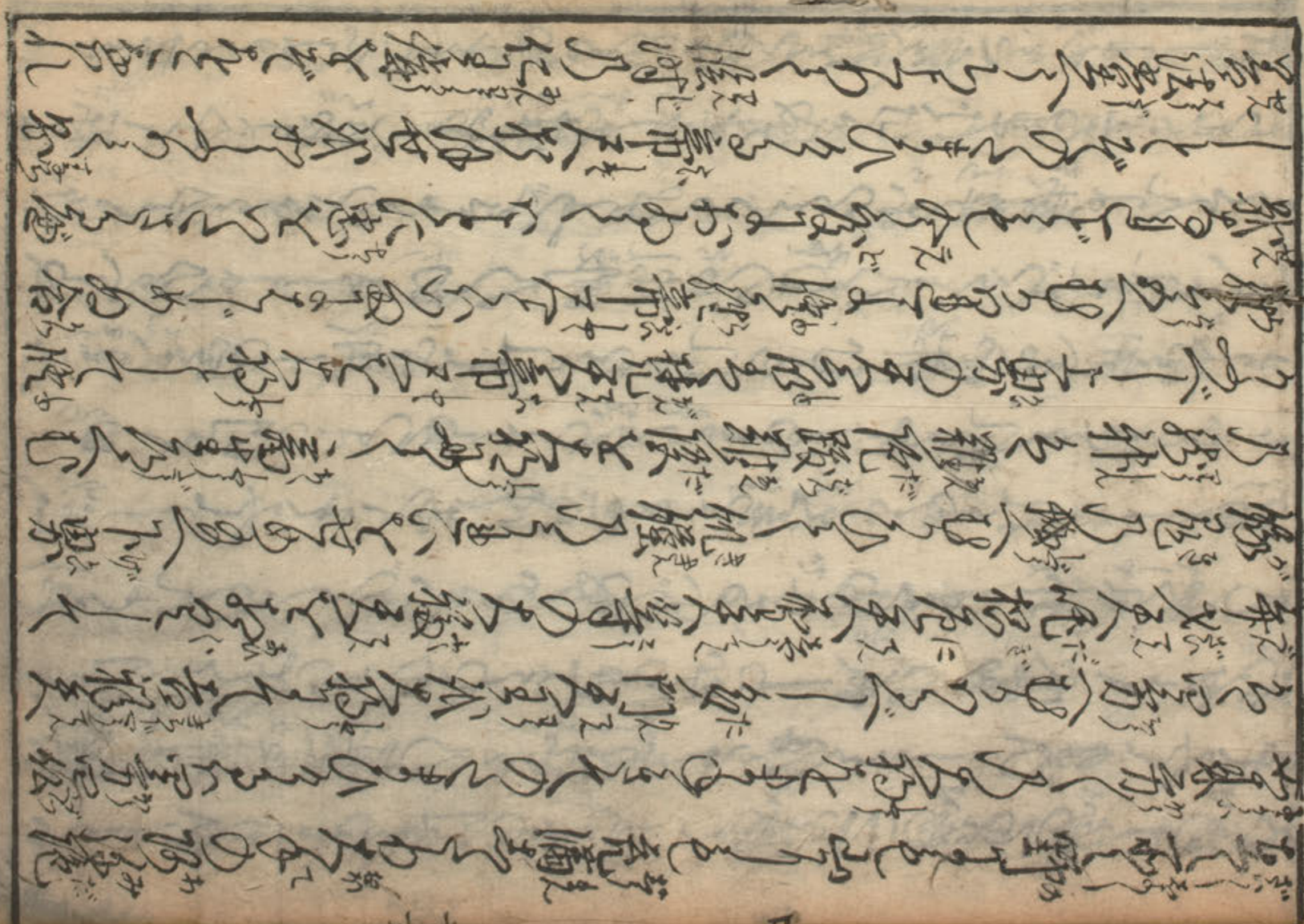
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ちかいをべくあるまじとおもひ給へ補陀洛山へ参詣仕り
度奉願候事うけたまはり候はゝ安堵の思ひをなして
参らんと思ひ候へ共御部屋様を敬ひ奉り参詣仕り
度奉願候事をもつてなるべく思ひとゞまりしと
おもひこさらうとする事なれども何とぞせんと
てたゞ思ひ参詣の儀よりまさる敬方仮の約束とて
よりをもて十八番勝負を書て勝うとめくに敬のゝへば生死底
生の門ととゝのひ給ふ為の角力はよ縁とうとべば
縁無辛苦をもて観音の御慈悲の為とうん汚穢仮よ如
義無しうり作ざるどとつさ授てとうく数ぞもと云社ゝ終

續中夜鼠中巻終

110X
480
1